

2024 全国都市緑化かわさきフェア 基本構想骨子（案）

1. 開催の意義（案）

川崎市は、戦前から工業都市として京浜工業地帯の中核をなし、戦災や高度経済成長期の公害問題を経験しながら、現在も都市として成長を続けております。都市化に伴い、里山など原風景が減少し、利便性が向上する一方で、市民からは、「みどり」を望む声も多く挙がっています。

こうした状況の中、都市における新たな「みどり」の価値の創造と、多様な主体による「みどり」の都市づくりを目指す契機として、市制100周年の節目となる令和6年度に緑化フェア開催を目指します。

開催に向けて、緑の事業に限らず、「コミュニティ」「教育」「環境問題」「防災」など、緑と連携が可能な事業を推進し、都市における「みどり」の価値を高め、フェア終了後も継続する取組を進め、次の100年に向け、より豊かな環境をつないでいくための「きっかけ・しくみづくり」の場として、市民の皆さんとともに考え、ともに取組を進める「全国都市緑化かわさきフェア」を展開してまいります。

2. 開催の基本理念（案）

かわさきフェアでは、「みどり」が持つ多機能性を、様々な課題解決に活用し、持続可能で魅力あるまちづくりを推進します。

- 多様性に富んだ“川崎”の寛容さを「みどり」で増やす取組
- SDGs「持続可能な開発目標」の達成に「みどり」で寄与する取組
- 都市における市民の新たなライフスタイルに「みどり」を活用した取組

3. 開催の基本方針（案）

基本理念を踏まえ、全国都市緑化フェアでは、「みどり」を楽しみ、より身近に感じられる取組を推進します。

①環境教育の推進

- ・未来の環境の担い手である子どもたちへの教育の場の提供
- ・安全で快適に過ごせる学習環境づくり
- ・スポーツ・文化芸術の振興

②地域コミュニティ形成の促進

- ・行政、市民、企業及び教育機関等との連携・協働によりみどりを守り育むきっかけの創出
- ・多様な主体が協働・連携による地域課題の解決

③都市環境の整備

- ・自然環境の有する多様な機能を活用した持続可能な都市づくり
- ・脱炭素社会の実現に向けた取り組み
- ・地域防災力等、都市のレジリエンスの向上
- ・既存の都市インフラの有効活用
- ・居心地のよりウォーカブルな空間の創出

④川崎の魅力・地域力の促進

- ・川崎ならではの「農」のPR
- ・魅力的でブランド力につながる臨海部づくり
- ・多摩川等の貴重な自然資源の活用

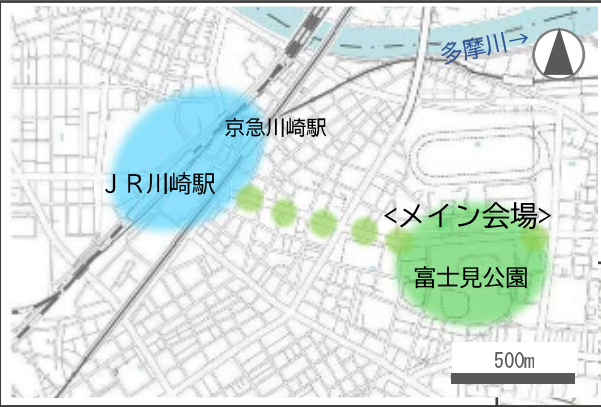


4. 開催の基本的事項（案）

1. 主催者等	主催者 川崎市、公益財団法人都市緑化機構 / 提 唱 国土交通省
2. 開催期間	令和6（2024）年 春季もしくは秋季を検討します。
3. 会場	各区においてフェア事業の展開をします。 メイン会場 富士見公園 サブ会場 各区の特徴を活かした会場を設定します。
4. 入場者規模	会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画で設定します。
5. 入場料設定	会場等は無料を基本とします。（一部有料プログラムを検討します。）
6. 愛称・シンボルマーク	基本計画以降、開催テーマを象徴し、川崎市らしく、市民に親しまれるものを設定し、広報宣伝等に活用します。
7. 開催事業費	基本計画策定時に概算工事費を算定します。

5. 会場計画（案）

- 市内各区の特性を活かし、市民や事業者等が行う様々な活動と、フェア事業を連携しながら展開していくことで、関係者すべてが、フェアの“当事者兼来場者”としてフェアに参加することで、みどりの交流を基軸とした全市的な事業構成とします。
- メイン会場は、川崎市の都心部に位置し、歴史や多様性のある現在の姿が川崎の顔ともいえる場所であり、フェアのコンセプトである「様々なきっかけ・しくみづくり」にふさわしい場所と言える、富士見公園一帯を検討します。
- 川崎駅とメイン会場間の、駅前広場や街路空間、その他の連携施設エリアにおいて、緑化フェアらしい演出や事業展開による、アクセスや周遊空間と一体となった雰囲気づくりをおこないます。



- ◆川崎駅からメイン会場のフェア展開イメージ図
- ・JR川崎駅前から徒歩約20分、路線バスの運行も多く、京浜急行や羽田連絡道路の利用による羽田空港からのアクセスも可能な利便性の高い立地条件です。
- ・駅前広場や駅周辺から街路空間と商業空間が連続してメイン会場に至る一帯は、集客と波及効果が期待できるエリアと言えます。

- ◆メイン会場イメージ図
- ・メイン会場は富士見公園内への設定を検討します。

富士見公園の背景
川崎市の都市公園第1号として、昭和11年に誕生し、戦災復興による区域の拡張があり、野球場やテニスコートなどの運動施設や県立図書館、教育文化会館などの教養施設を備えた「総合公園」で、市民の憩いの場として、長きに渡り利活用されてきました。



6. 事業計画（案）

(1)出展・展示計画	◆市内各区の地域の特性を活かした会場利用や事業展開を行います。 ・「みどり」を身近に感じられて、触れて、感じて、行動したくなる「体感型展示」 例）都市の様々な緑ある暮らし、緑あるワークスタイル、都市農地、等 ・「環境先進都市」としての背景とともに、最新及び未来の環境技術・研究を紹介することで、市民の「エシカルな暮らし方」を「みどり」視点で俯瞰から目先までのスケールで実感できる展示（行催事ともコラボ） 例）脱炭素、ナイトタイムエコノミー、都市農地、等 ・「みどりを軸とした場づくり、場づかい」のモデル展開 例）市民参加管理運営の公園、「新しい生活様式」時代の公園、等 ・「グリーンインフラ」が持つ多機能性と、人が自然に寄り添い社会や生活様式を変容していく考え方に触れ、川崎での展開を実感できる展示（モデル事業展開） 例）丘陵・河川・農地・市街地・臨海部のグリーンインフラ、等 ・街なかにおいて、地元主体の緑や花の仕掛けづくりに取り組み、そこから人々の輪が広がる効果を期待する企画展示 例）商店街、駅前、駅地下、民間用地、街の空スペース、わがまちコン、等 ・造園・園芸団体、愛好家団体、全国の自治体の参画による、花と緑の技術やデザインの出展展示や催事プログラムを展開 ・メイン会場である富士見公園の多様な施設や空間を活かし、川崎市の様々な取組を具現化して、交流したり情報交換できる場としての出展・展示企画 例）プロムナード・市民広場・カルッツかわさき・市民管理花壇などの公園施設利活用、施設との連携、民間導入、等	 屋内緑化技術による修景  市民のみどりの活動展開  緑の総合学習の発表
(2)行催事計画	◆「環境、農業、教育、コミュニティ、防災」などの関連する施策との連携による企画を展開します。 ◆行政、市民、事業者などの多様な主体が「みどり」の効果を軸に繋がり係わることで、まちづくりが充実し、コミュニケーションが行き交う未来の姿を先取りして実践する企画を展開します。 ・今ある緑の市民の取組をネットワーク化し、バージョンアップの起点となる企画 例）特別緑地保全地区、地域緑化推進地区、公園管理、等 ・「みどり」の力を活用した「しくみ」づくりの実例 例）緑地保全と総合学習、地産地消と食育、健康やスポーツと緑、テクノストレスと緑、等 ・市民団体や企業 CSR 活動として既にある緑地保全などの取組を、市内全域へとネットワーク化し、さらには市民などへ拡張性あるしくみづくりを企画 例）企業の研修や保養の緑地活用、緑のボランティア活動と地域コミュニティ・防災、等 ・公園緑地ストックや保全緑地、都市農地などを拠点に、キーパーソンやコミュニティからの学びや活動の輪を広げる企画を展開 例）公園で寺子屋、緑育、地産地消、農地保全参加、河川活動、等 ・人の多様性ある街として、緑とカルチャーのコラボ企画 例）音楽、アート、様々な表現活動の場としての公園緑地、等 ・企業緑地の背景とその取組や効果を発信する機会 例）企業（臨海）緑地ツアー、企業緑地でフェアオープンディ、等 ・かわさきフェアのテーマに即した、学会やシンポジウムなどの誘致や企画（カルッツかわさきの活用）	 緑を活かした賑わいづくり  農の参加交流企画

(3)飲食・物販計画	◆かわさきフェアのテーマに合致した飲食・購入が楽しめる飲食・物販を展開します。 ・人気店などとコラボして「カフェのある公園」等をフェアで体験 ・川崎産の農産物を意識しながら楽しんで食す機会づくり ・「みどり」を大切にしている既存の店舗や、フェアをきっかけに新たに「みどり」を取り入れる店舗とのコラボ企画 ・「みどり」を意識した消費行動のきっかけとなる物販企画	 公園でカフェやショップ
(4)会場運営計画	◆主催者を中心として、参画関係者との連携・協力・協働を基本とした運営とします。 ◆協賛・連携による出展等の主体者や、管理や運営で協働可能な「パートナー」のつながりを構築し、主催者の支援を受けつつ主体的な運営参画を誘導します。	
(5)広報宣伝計画	◆関連イベント等でキャンペーンやPR活動を積極展開します。 ◆パブリシティのほか、SNS等を活用し、開催までの準備情報や協働参画者からの発信・交流も誘発しながら、開催までの機運を高める広報戦略を展開します。 ◆すでに「みどり」と馴染みある市民の方々から、楽しく人づてで広がる広報企画	
(6)植物調達計画	◆川崎市内や周辺市町村の生産団体等と連携・協力し、調達体制を構築します。 ◆花き産業の活性化や、市民への花きのより一層の普及を目的に、業界と連携したスキームを企画します。	
(7)交通輸送計画	◆メイン会場は鉄道、バスの既存公共交通利用を基本とします。 ◆フェア開催期間中のシャトルバスの運行を検討します。 ◆公共交通利用促進の十分な広報と誘導策の実施を図ります。 ◆会場ごとの条件、利用想定に応じた、団体バスや身障者対応の駐車場を設定します。	 公共交通乗り場の花の演出
(8)協働推進計画	◆フェア開催を通じて、緑化の認識、推進、継続、発展、発信について、市民と事業者等の協働や人々のつながりを実感し、表現する機会と場を創出します。 ◆みどりの場と交流を通じた取組と成果が、開催後の継続と広がりにより、フェアレガシーとなっていきます。	

7. 事業スケジュール（案）

	開催4年前 R2（2020）年度	開催3年前 R3（2021）年度	開催2年前 R4（2022）年度	開催1年前 R5（2023）年度	開催年 R6（2024）年度
計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画		緑化フェア開催
国との協議		★ 大臣開催同意			
実施体制	◆ 懇談会設置	◆基本計画策定 委員会設置	◆実行委員会設立 ・事務局設置		実行委員会 解散◆
会場整備等		設計・整備	（公園整備と連携）		
フェア開催都市	広島県・広島市 他22市町村	熊本市	北海道・恵庭市	仙台市（予定）	川崎市（予定）